1983年　日本海中部地震（加茂青砂海岸（秋田・男鹿半島）の写真）

写真-1
男鹿半島の加茂青砂海岸

写真-2　子供たちの慰霊碑

1983年に起こった日本海中部地震では104人の人が亡くなった．そのうち100人は津波による犠牲者である．「地震といえば津波」ということは今では常識である．しかし，このときこの地の多くの人たちにはこの常識がなかった．

写真-1は，13人の小学生が津波の犠牲になった男鹿半島の加茂青砂海岸である．山間の小学生がバスでこの海岸に来た．海岸に到着したとき地震があった．バスの中で揺れが収まるのを待ち，収まってから弁当を食べに海岸へ降りていった．そのとき津波が襲ってきて，あっという間に13人の幼い命が奪われた．

このとき，バスの運転手，学校の先生，子供たちの誰か一人が津波の可能性を知っていれば，この子たちの命は救われたのである．ちょっとした常識の有無が，災害時には生死を分け，それを防ぐには防災教育が必要である，と思った．

写真-2は子供たちの慰霊碑である．お菓子やジュースを供えてお爺さんお婆さんが孫の冥福を祈っている．この碑の裏には，13人の子供の名前が刻んである．そのうち3人は三浦姓であった．他人事とは思えなくなった．

その翌年，長野県西部地震が起きた．谷口仁士氏（当時愛知工業大学助手，現・名古屋工業大学教授）は被災地を案内しながら学校防災の必要性を私に説いた．防災教育の必要性を痛感していた私に異論はなかった．

昭和から平成に移る約2年間，私はアメリカのコーネル大学へ留学した．日本でのアンケート調査，アメリカでの調査で，防災教育に関する適切な教材がないことを知った．帰国後，防災教育用のコンピュータソフトを開発しようと考えた．折しもアメリカでは映画「Ghost-busters Ⅱ」が大ヒットしていた．防災教育ソフトの名前を「Quakebusters」と決めた．

帰国後，私の研究室に配属された学生の中に，このソフトを開発するために勉強してきたような学生がいた．それがこれまでずっと「Quakebusters」を開発してきた瀧本浩一君（現・山口大学助手）である．「Quake-busters」はその後，国連地域開発センターに移った谷口氏たちの協力によって英語版も開発され，CD-ROM版として国内外に配布している．

慰霊碑の横には小さな石碑が置いてあり，そこには次のように刻んである．

十三の　み霊よともにたわむれん
光あふるる　今日の浜辺に

（正会員　山口大学理工学研究科教授　三浦房紀）